



最近、あるテレビ番組でマナーの良し悪しを扱っていたが、葬儀のマナーでは「驚くようなマナー」が飛び出してきたのには驚かされてしまった。もちろん宗教、宗派によっても違ってくることは分かっているが、「悲しそうな顔をする」などは当たり前と言えども当たり前だが、「ふりをせよ」ということなのだろうか。また焼香の作法も真宗では決して香をいなだいたりしないし、焼香の後には香の乱れを整えることも、後に続く人のために大事な作法になってくる。一礼から始まり最後の合掌に至るまでのほとんどが真宗とは異なる例であった。導師のいる場所も、親族と会葬者との作法も異なってくる。もし、こういう項目についての作法を取り上げるとするならば、宗教、宗派を明白にした方が良くと思われる。けしてあの作法が一般的ではないし、あれが正しい作法として流布することを危惧するのである。

また来賓の挨拶にも驚かされることが多い。一例をあげれば「安らかにお眠りください」である。眠っているのだったら起きてきてほしいと思うし、安らか眠っててもらわないと困る訳でもあるのかな?などと思ってしまう。

とかくこういう場においては、人間の思いを中心に据えて発する言葉が多いのですが、一度仏法を尋ねてみる(相手の宗教に合わせて)ことも、事に臨む前の**大切なマナー**だと思われるのだが、いかがなものだろうか。

秋季永代経勤まる。

快晴に恵まれた当日ではあったが、町民運動会と重なったこともあって参詣者はやや少なめのようでした。お齋が余ってしまいました。しかしながら、仏法第一の、篤い思いで参詣いただいた方をお迎えてついでに、「宗の繁昌と申は、人の多くあつまり、威の大なる」としてはなく候。一人なりとも人の信を取るが「宗の繁昌に候」と、蓮如上人の仰せが、耳に響いてきて少し心安らいたことでした。

一〇数年の永代経は若院、若坊守と住職という寺族での法話をさせていただいているのですが、つたない話であっても熱心に聞いていただいていることに、申し訳なきとありがたいさがこみあげてくるのです。

時々講師をお迎えするにもお考えはいるのですが、今しばらくは、法話ができる場を、寺族に与えていただきたことと思っています。こいつつ機会に、門徒の皆様の前にあからさまな姿をさらけ出すことで、共に歩んでいける第一歩が始まるのではないかと考えているからです。今後ともよろしくお願いたします。

住職 ただ念仏しての ただごとのこと。
 若院 極楽 阿弥陀経に観る

十月の学習会の「案内」

十月十三日(土)夜七時より



『正信偈』に学ぶ 若院法話 ・ 座談



「お取り越し」

間もなくお取り越しの季節になりました。

親鸞聖人の御命日に合わせてその「遺徳を偲び、感謝の思いを深くいたしましよつ。

これは真宗門徒の務めです。



台風接近のさなか本山奉仕団として上山(じょうざん)してまいりました。計画当初は参加者が18名でしたが、様々な事情により16名となりました。

今回の上山は同朋会館がリニューアルされてから初めてのこととなりますが、今回参加された方々は今まで何度も上山され、すでに帰敬式(おかみそり)を受けられ、法名をいただいている方がほとんどでした。

今回の受式者は5名となり、誠におめでたいことでした。あの厳かな雰囲気の中、次期門主からお剃刀を受けられている姿を見ていましたら、涙が流れて仕方ありませんでした。新しく仏弟子としての一歩が踏み出された瞬間でした。



最年少参加者は30代半ばの青年でしたが、帰敬式を受けてくれました。親御さんの生きる姿勢がお手本となったようです。

同じ時を生き、同朋として過ごした一泊二日の奉仕活動は、深く心に刻み込まれたのではないかと考えています。

奉仕活動は約一時間のお磨きでした。お磨きには稲の苗を乾燥させたもので薬品を使わず磨くのです。みなさんこれには驚かれていたようですが、この方法は伝統に行われている方法なのだそうです。休憩時間には自由に飲めるコーヒーやお茶を楽しみながら、歓談していました。



車いすの利用された方もありましたが、皆さん助け合ってとても和やかな雰囲気でした。

意外に知らない浄土真宗

その②

〇位牌が無い。

位牌とは、もともと中国の官位や姓名を機軸の札に書いて供えるという儒教の考え方です。したがって仏教と関係ないことなので「位牌」は使わないのです。また「戒名」ではなく「法名」といいます。



〇お墓じつは〇家じつは書かない。

お墓に故人がいるという考えはありません。あくまでも故人を偲び今生きる私たちが感謝の気持ちで手を合わせるのです。浄土真宗のお墓の正面は「南無阿彌陀仏」あるいは「倶会一処 へんいつつよ」と彫ります。

〇お仏壇じつはお茶はあげない。

お仏壇全体で浄土の世界を顕わしています。浄土には「八功德水はくごすい」といって水がふんだんにあります。浄土真宗ではお仏壇の中の華瓶(けびょう)という仏具に水を入れ、密(む)きみか青木を入れます。密は香木なので、香水として供えるのです。

今月の法語

本願を信受するものは、

前念命終なり 聖典 4300

ご信心をたまわると、私が今まで一番大事と思っていたものが、死んでしまう。壊れてしまう。また、それと同時に生き生きと生きていく人生のスタートとなる。

ホテイアオイの花が咲きました。

初めて目にしたように思います。



本堂前のメダカの水槽

アメリカ原産ですって！